栄村の給食を考えようの会

# 自主上映会開催!!

２月21日㈰、22日㈪の２日間、映画会「いただきます２～ここは、発酵の楽園～」が栄村文化会館かたくりホールで行われました。

「村民の皆さんと一緒に考える機会になればと映画会を開催しました」

そう語るのは、映画会を主催した「栄村の給食を考えようの会」で代表を務める鑓水愛さん（長瀬）。この会が発足したのは２０２０年１月。近年有機野菜への関心が高まりつつあり、「オーガニック給食」に取り組む学校も新聞で紹介されるようになってきました。「栄村の子どもたちにも、そんな給食を届けることが出来たらいいな」そういった思いで仲間を募り、会を発足。現在会員11名で、映画会の開催をはじめ、有機農業を拡げるための活動に取り組んでいます。

昨年11月には栄村との共催により、「いただきます～味噌をつくる子どもたち～」を上映。今回は長野県有機農業推進プラットホーム先進活動支援金の補助を受けて、前回の続編でもある「いただきます２～ここは、発酵の楽園～」を上映しました。「全部を有機野菜に、とはいかなくても、給食に少しでも多くの栄村産の野菜を届けられるようにみんなで考えていきたい」あいさつの中にはそういった言葉もありました。

映画会に参加した方からは、「映画をみて、土づくりを頑張ろうと思った」「できることからやってみようと思います」「あらためて食、口に入れる物の重要さを感じました」「自分で畑を作ってみようかな」といった感想がありました。

有機栽培に関心を持つ人や、畑の一部を有機栽培でやってみようかなと思う人が増えていくといいね。そういう人が情報を得たり、取り組みやすい環境ってどうしたらいいだろうね。スタッフ間ではそういった会話が飛び交います。「栄村の給食を考えようの会」という名称ですが、給食の枠を超えて、これからも発展していきそうです。

「一緒に活動する方、随時募集中」とのことですので、興味関心のある方は、鑓水さんまでお声がけください。

公民館報 さかえ
第339号
令和３年３月１日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

# 小滝区が長野県公民館アワードを受賞しました!!

長野県公民館アワードとは、地域づくりの取組につながる公民館の学びの活動成果を評価・顕彰し、公民館活動の一層の活性化を支えることを目的に、長野県教育委員会が実施しているものです。

今回の受賞は、震災直後だけでなく、震災前からの小滝住民が主体的に学び合い、取り組んだ活動が評価されたものです。

小滝の取組について紹介します。

**希少植物講座をきっかけに**

震災前の平成21年、栄村教育委員会主催の希少動植物講座で、小滝に「タマアジサイ」があることが判明。講座に参加した古老から、タマアジサイが生息する場所は善光寺街道であったことを聞き、小滝有志で草を刈って古道を復活。現在では多くの希少動植物が古道沿いに生息すると共に、整備後に発見した運河跡もジオサイトに認定。それらを活かした古道歩きイベントを開催し、若者、女性も一緒になって外部との交流を実施している。

**小滝独自で地域学習**

小滝公民館独自で古文書講座を開催。その講座で、３００年前水不足によって小滝住民が集団で移住したこと、それを受けて箕作村島田三左衛門が、小滝へ水を引くための水路を築いたこと、これにより小滝集落が存続したことが判明。この講座で学んだことが、震災後の集落目標である「小滝を３００年後に引き継ぐ」のきっかけとなっている。

**小滝全員で思いを語り合う**

震災後、復興プロジェクトを立ち上げて毎週のように寄合を行う。また小滝に住む住民全員と帰省した若者や子どもたちによるワークショップも開催。小滝の好きなところ、残ってほしいもの、こうやって暮らしていきたいといった思いを語り合い、これを素にして小滝独自の復興計画を策定。このことが住民みんなの目標となり、現在の活動につながっている。

## 2021年 令和3年度 生涯学習・公民館行事予定

7月４日㈰　栄村駅伝大会

8月14日㈯　令和２年度栄村成人式

8月15日㈰　令和３年度栄村成人式

2月６日㈰　第51回栄村スキー大会

冬期間移動図書　11月～３月

この他、栄村総合文化祭（10月頃）、村制65周年県民コンサートも予定しております。

感染症対策により、延期・中止にすることもあります。

# 地域史料保全有志の会の報告会が開催されます！

●期　日　**3月14日㈰　12時30分開場　13時開演**

●会　場　**栄村文化会館かたくりホール**

■■■ プログラム ■■■

13:00～13:05　開会のあいさつ／宮川幹雄村長

**第Ⅰ部　震災からの10年の活動を振り返る**

13:10～13:30　１．村民と歩んだ10年の活動～活動の栄村らしさとは？
白水 智（地域史料保全有志の会代表・中央学院大学）

13:35～13:55　２．栄村の民具はココが凄い！
－文化財レスキュー活動を通して学んだ木製民具について－
石野律子（神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員）

14:00～14:20　３．考古＝振り返る10年、これからの10年
高橋健樹（武蔵村山郷土の会事務局長）

14:25～14:45　４．日本の文化遺産保全における阪神・淡路大震災の意義と栄村の取り組みの独創性
藤田明良（天理大学／歴史資料ネットワーク元事務局長）

14:25～14:45　５．飯山レスキューで新発見！の伊藤博文の書翰について
寺島宏貴（国立公文書館）

**第Ⅱ部　栄村の誇れるものを後世に残し伝えよう！**

15:00～15:20　６．すごいぜ！！伝えたい！栄村の自然
涌井泰二・広瀬明彦（栄村希少動植物調査員）

15:25～15:45　７．山を使う知識と技術～秋山の文化を受け継ぐためには
井上卓哉（静岡県富士市文化振興課）

**詳しいお問い合わせは栄村公民館（☎87-2100）まで**

新型コロナウイルス感染防止対策（マスク、検温、手指の消毒、ソーシャルディスタンス）を徹底して開催します。ご協力お願いいたします。

# 一石を投じる

## 栄村の集落について考える２

平成30年11月の広報で、村内31集落の区長さんに行ったアンケート結果が掲載されています。その中には、「区長として活動する中での集落の課題」という項目があり、住民の高齢化や集落民の減少、耕作放棄地の増加、道路や水路の草刈り等の普請が挙げられてます。

高齢化率は50％を超え、村民の4分の1が80歳以上。高齢者世帯が増加し、空き家が増える一方…。と集落の課題は尽きません。

昔と今を比較してしまうと、マイナス要因はとめどなく出てくるのではないでしょうか。

### 和山地区の取組み

村内で高齢化率が１００％となってしまった集落は塩尻、当部、和山の3集落。

令和2年度、和山地区では、集落公民館大規模改修や地縁団体の設立など、大きな事業を実施しています。

大規模改修後の和山公民館

和山区長の山田重彦さん(79歳)は、「和山公民館の耐震強度がないことは以前からわかっていた。避難場所である公民館に何かあっては安心して暮らせない。今やってしまわなければできなくなるという意見もあり、一致団結して1軒20万円を負担して今年度実施することになった。」と語ります。

話を伺ううちに、地縁団体を設立しているというお話も伺い、代表である島田福一さん（85歳）にお話を伺いました。「和山共有地のカラ松が売れたということもあり、その資金を活用して地縁団体の設立を決めた。でないと木を一本切るにも承諾を得るのが大変。みんなが達者でいるうちに、和山の共有財産としておくことで、役を持っている人が苦労しなくて済む。」福一さんは様々な書類を集めたり、税務署へ手続きに伺ったりと、とてもご苦労されている様子でしたが、「役を持った人や後の人が困らないように、今やっておく必要がある」と奮闘しています。

和山集落の方にお話を伺うと、「死んでいくのは簡単だが、後に残された者が困る。達者でいるうちにできることはやっておかないと。」「これから役を持った人のことをほっとけない」といったお話も伺えました。

村内の多くの集落では、高齢者世帯への普請の免除制度や村外に住む子どもの力を借りて普請を行っているところが多いようです。和山では、普請を住民で行うことが難しくなったため、区費から日当を払って人に依頼をしているようですが、「それでも『できるところは』と役を持った人がやってしまうんだ。何か事故があっては困るから、やらなくていいって言っているんだけど…」

お互いに相手のことを思いやってできることを尽くしているように感じました。

当部では、普請の日を決めても、都合が悪く参加できない家が出てくるため、それぞれの担当場所を決めて、自分の都合に併せて行うように工夫しているようです。

集落は、その時々の状況に応じて、住民で考え、行動に起こすといった、一つ一つの積み重ねで今があります。昔のようには行かないことがたくさんあると思いますが、今の集落を見つめなおし、これからどうしていくのかを考えることが大切なのかもしれません。

人の致死率は残念ながら１００％なんだという話を公民館長と主事でよく話をします。「どうせこうなる」といった話はなしにして、自分の人生をこれからどのように生きていきたいか、どういう自分でありたいかということを一度考えてみてはいかがでしょうか。実はこれが集落づくりに一番大切なことだと考えています。

小滝地区は先に伝えたように、長野県公民館アワードを受賞しました。他にも総務省ふるさとづくり大賞も受賞しており、交流イベントや独自の小滝米の販路も持っています。このように村外からも注目されるようになったのには、独自で地域資源を学び保全する活動が行われていたことや、震災復

旧時に支援していただいた方と現在でもつながっていること、震災後に老若男女全ての住民が集まり、小滝に対する思いを見える化し、みんなで受け止め合ったことがカギを握っています。

「普請で人手がかかるところを改善したい」という話ももちろんありましたが、「お茶飲みを続けていきたい。」「死ぬまでここで暮らしたい」といった意見まで出し合い、そうだよね、そういう小滝いいね、と思いを共有し合い、これからの小滝を描いたこと、そして、そのために自分たちにできることと村や外部の力を借りなければいけない事を明確にしたことが今につながっています。そして、それに賛同した若者が、自分たちも力になりたいと、小滝へ移住するまでになりました。

小滝震災後のワークショップ（平成24年８月）

これは区長や館長が中心となって行ったことではなく、必要性を感じた住民有志が仲間に声をかけて実施しました。「誰かやらねかな」「おらどこの役員さんはそういうことしないから」と誰かがやってくれることを期待するのではなく、自分の人生を心豊かにするためにも、当事者となって何ができるかを考えてみませんか。

「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになる人はいないと思います。

ある集落のでき事です。そこでの普請は、１軒１人が出ればよかったそうですが、「コロナ禍で人手が足りないかもしれない」という話を耳にした青年が、自主的に参加したところ、多くの住民に「ありがとう！」「助かった」と感謝されたそうです。するとその青年は、冬のどうろくじん様づくりにも主体的に参加したそうです。

一方で、父親に誘われて集落の普請に参加した高校生。ベテランの中、未成年一人で心細く感じながらも作業を行いましたが、誰からも「ありがとう」の声掛けはなく、「もう二度と出たくない」という結果に。

人は、人に感謝されたとき、「機会があればもう一度そのように行動しよう」と感じるものです。人は自分の意見を受け止めてくれる場所や役立ち感を得られる場所に居心地の良さを感じます。人は人と関わり合う中で日々成長していきます。子どもだけでなく大人だって、どういった環境の中で暮らしているかで性格や行動、表情も変わるものです。役員さんや、協力しようと参加してきてくれた新人に、感謝の気持ちを言葉で伝えること、相手の意見をまずは受け止めること、といった「私にできること」が、これから大切になってくるのではないでしょうか。

## 地区別人口データ表

| 地区名 | 世帯数（人） | 人口（人） | 少子化率（%） | 高齢化率（%） |
|---|---|---|---|---|
| 白　鳥 | 62 | 133 | 9.8 | 46.6 |
| 平　滝 | 107 | 174 | 2.3 | 66.7 |
| 横　倉 | 48 | 125 | 11.2 | 32 |
| 青　倉 | 54 | 115 | 7 | 49.6 |
| 森 | 76 | 178 | 6.2 | 46.6 |
| 泉　平 | 21 | 51 | 7.8 | 56.9 |
| 箕　作 | 50 | 119 | 7.6 | 48.7 |
| 月　岡 | 38 | 109 | 11 | 46.8 |
| 小　滝 | 16 | 38 | 18.4 | 39.5 |
| 野田沢 | 26 | 68 | 2.9 | 52.9 |
| 大久保 | 20 | 42 | 2.4 | 61.9 |
| 天　地 | 4 | 11 | 0 | 36.4 |
| 塩　尻 | 1 | 1 | 0 | 100 |
| 雪　坪 | 13 | 31 | 9.7 | 51.6 |
| 志久見 | 33 | 68 | 4.4 | 51.5 |
| 柳在家 | 14 | 27 | 3.7 | 77.8 |
| 切　欠 | 14 | 39 | 5.1 | 48.7 |
| 長　瀬 | 30 | 65 | 6.2 | 43.1 |
| 原　向 | 18 | 36 | 2.8 | 63.9 |
| 笹　原 | 5 | 10 | 0 | 40 |
| 当　部 | 5 | 6 | 0 | 100 |
| 坪　野 | 2 | 4 | 0 | 50 |
| 天　代 | 7 | 13 | 0 | 84.6 |
| 北　野 | 14 | 39 | 5.1 | 35.9 |
| 中　野 | 11 | 18 | 0 | 83.3 |
| 極　野 | 18 | 38 | 7.9 | 50 |
| 五宝木 | 7 | 15 | 0 | 73.3 |
| 小赤沢 | 44 | 95 | 2.1 | 57.9 |
| 屋　敷 | 23 | 40 | 0 | 77.5 |
| 上野原 | 10 | 19 | 5.3 | 57.9 |
| 和　山 | 8 | 13 | 0 | 100 |
| 切　明 | 4 | 6 | 0 | 50 |

令和３年１月１日現在

# あーそんなことがあったんか　～ど先生の栄村昔語り～　其の四十三

# 『百年前のスペイン風邪の頃』（続き）

地域史料保全有志の会
鈴木 努（通称：ど先生）
イラスト作成：佐藤洋平

春に向かってやや気温が上向いてきました。皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。年明けから豪雪に地震と色々なことがありました。また感染症流行に対してようやく先月から医療関係者を対象にワクチン接種が始まりましたが、変異種が次々に顕れる状況もあり、なかなか先が見えない様子です。さて、前回は大正時代の流行性感冒（インフルエンザ）予防を呼びかけた大正一一年の通牒を紹介しました。今回は同じく青倉区有文書の中から、少し遡った時期の史料を二点紹介しましょう。

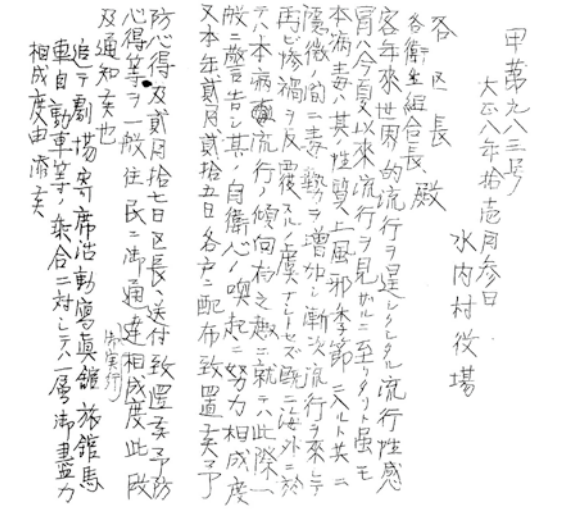
一点目は、大正八年（一九一九）一一月三日付けの「甲第九八三号」通牒で、水内村役場から各区長・衛生組合長に宛てて出されました。長野県内でまさに流行性感冒の第二波が始まる直前です。九州ではすでに同年九月から第二波が始まっていました。

甲第九八三号通牒は、世界的流行を逞しくした流行性感冒は今夏以来流行をみないが、風邪の季節に入ると隠微の間に（わからないうちに）毒性を増加して流行し、再び惨禍を繰り返す虞があり、海外では流行の傾向もあるとの見込みを述べ、そこで各区長と衛生組合長には、一般に警告し自衛心を呼び起こすよう努めてもらいたい、と告げています。また同年二月に各戸に配布した予防心得などを一般住民によく達し、実行させるようにしてもらいたいと付言しました。予防心得は同年一月に内務省衛生局が作成した「流行性感冒予防心得」のことを指すようです。

通牒の追記部分には、劇場・寄席・活動写真館・旅館・乗合馬車自動車に対する尽力が書かれています。「流行性感冒予防心得」は、「罹らぬには」の見出しで人混みを避けるように告げ、時節柄芝居や寄席、活動写真などへ行かないこと、急用でなければ電車などに乗らないことなどを勧めていますから、通牒でもそれに則した追記をつけ、電車の代わりに乗合い馬車・自動車を挙げるなど地域に即した改訂を加えたようです。大正時代の水内村の人々に寄席や活動写真がどう関係するのか、と考えそうですが、当時の栄村域などでは、「江戸行き」と称して若者が冬季に都市に出て色々な職に就いたり見聞を広める習慣があり、また、青年会の行事などで幻灯会や芝居を行うこともありますので、当時の村の人々にとっても必要な情報だったと思われます。

そうこうするうちに一一月上旬に県内で第二波の流行が始まります。第二波は、罹患者が少ない一方で死亡率が高く（第一波一・二パーセントに対し第二波五・三パーセント）、内務省の統計では県内で第二波発生から年内に罹患者九一〇人・死者三八人、同九年一月には罹患者四七七四人・死者三九三人、翌月にはさらに増加します。

大正九年二月三日に水内村役場が改めて、各区長宛てに「甲第九八号」通牒を出しました。「目下流行を逞しくする地方少なからず、本県にあっても日に患死者を増加しつつあるは寔に遺憾」であり、「其の性質上予防方法甚だ困難なものがあるが、一般に自衛的注意を喚起せしむが緊要」と告げ、その方法として呼吸保護器（マスク）使用の励行を求めています。予防医学の力が及ばず、公衆衛生で対抗するしかない時代だったことがうかがえます。



水内村役場通帳（甲第９８３号）

# 図書室だより

３月といえばひな祭り。お雛様を出して和やかな雰囲気のお宅もあるのではないでしょうか。

雛人形は天皇の結婚式を模しているといわれています。童謡『うれしいひなまつり』の歌詞の中にも「お内裏様とお雛様　二人並んですまし顔」という歌詞がありますね。ですが、「お内裏様とお雛様」というのは、ひな飾り上段に飾られている男性と女性２人の事ではないということをご存じですか？

実は「内裏」とは天皇の私的区域の名称だそうです。そのため「お内裏様」は男雛一人ではなく、男雛と女雛の二人のことだそうです。では「お雛様」は…実際は雛飾りの人形全体の総称を意味します。ちなみに七段飾りなどにある花も「桃の花」ではなく「桜」だそうですよ。

## 冬期間村内移動図書残りわずか！

残すところあと１か月になりました。新たな利用ももちろんですが、返し忘れている本があるけどなかなか図書室には行けないという方、移動図書の時で構いませんのでぜひお持ちください。

**３月移動図書巡回日**

| 東　部 | 西部・豊栄・水内 | 秋　山 |
|---|---|---|
| ３／10㈬ | ３／11㈭ | ３／12㈮ |
| ３／24㈬ | ３／25㈭ | ３／26㈮ |

## 新着図書の紹介

推し、燃ゆ（宇佐見りん）／汚れた手をそこで拭かない（芦沢 央）／八月の銀の雪（伊与原 新）／
オルタネート（加藤シゲアキ）／
さかなクンの一魚一会 ～まいにち夢中な人生！～（さかなクン）／元彼の遺言状（新川帆立）／
この本を盗む者は（深緑野分）／お探し物は図書室まで（青山美智子）／半沢直樹 アルルカンと道化師（池井戸 潤）
脊柱管狭窄症 自力で克服！ 腰の名医が教える最新１分体操大全／
腰痛・ひざ痛・足首痛・外反母趾…痛くない！ 疲れない！ 歩き方の教科書（木寺英史）他

**【絵　本】**

おんせんたまご（中尾昌稔）／パンどろぼう（柴田ケイコ）／
おうさまがかえってくる100びょうまえ！（柏原佳世子）／ゆきのけっしょう（小杉みのり）

おかしなゆき ふしぎなこおり
（片平 孝）

### 4/23は子ども読書の日です

2001年に子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため定められてから今年で20年。子どもに贈りものをする機会のある方は本を選択肢に入れてみてはいかがですか。

### ★栄村図書室 土日開放ボランティア募集★

１～２か月で１回程度の当番です。村内在住の成人している方ならどなたでもできます。ゆっくり読書や調べ物が出来ますよ！お問い合わせお待ちしています。

お問い合わせは☎87-3118（栄村公民館図書室）へ。

### ★栄村図書室休館日★

４月24､25日の２日間選挙期間のため休館にします。

### ★栄村図書室開放時間★

平　日　午前８時半～午後５時
土・日　午前９時～正午
※祝日は休館します

# がんばる村の子どもたち!!

飯山高校探究科３年藤木智広さん（極野）が、栄村堺地区におけるモバイル通信環境について調査し、長野県科学賞優良賞を受賞しました!!

智広さんは、2019年に発生した台風19号の時に、スマホの電波が途絶したことをきっかけに、探究科に通う仲間３人と共に、堺地区におけるモバイル通信環境について調査。基地局がある集落とその他の集落で、平常時の電波強度が大きく異なることを突き止めました。

また、飯山高校自然科学部に所属する３年廣瀬智悠さん（横倉）も、「ＩＳＳ出没時の色変化の原因を探る」というテーマで県科学賞奨励賞を受賞しています。

下高井農林高等学校に通う３年桑原麻美さん（横倉）は、昨年10月に開催された全国高校生そば打ち選手権において、団体戦優勝、個人戦２位の成績を収めました。

栄村で学び成長していく子どもたちが、頑張る姿は同じ村民として喜ばしいですね！

# おおきくな〜れ

大きくなったら
役場でお仕事したい

**陽太（ようた）くん（６才）右**

大きくなったら電車の
運転士さんになりたい

**虹介（こうすけ）くん（６才）左**

二人仲良く、栄村の自然の中でのびのびと育ってほしいです。

石塚雄樹さん・真理さん（志久見）

# 村民広場

**石川泰正さん（36歳）屋敷**

地域おこし協力隊として栄村に移住し任期満了の３年が経ち、今年は転職期になります。

現在は雪害対策救助員として除雪仕事の修行中です。狩猟者としても２年目となり射撃機会も増えてきましたが当たらずの射撃続きでへこんでいます。今までは観光関係を意識して行動していましたがまだ我慢の時が続きそうです。一人一人が意識しこの局面を乗り切りましょう。

これからも宜しくお願いします！

**廣瀬達也さん（35歳）箕作**

結婚を機に９年前から栄村に住み始め、昨年箕作区に家を建て、妻と今年で５歳と２歳になる息子２人と４人で楽しく暮らしています。わんぱくで甘えん坊な野郎二人の子育ては大変ですが、それ以上にパワーと癒しを彼らに貰っています。父親になれて本当に良かったと実感しています。スポーツが好きで、主に野球をやっていますが、他にバトミントン、ボウリングが得意です。最近はソフトバレーが楽しくてハマっています。ブロックがうまくできないので、見かけた際には教えて頂けたらうれしいです。

# 6年目の冬 除雪機を使う

月日が経つのは早いもので私が栄村に越してきて６年目の冬を迎えました。今では、除雪機を使って家の周りの除雪をしています。最初は自力で雪をかいていましたが、近所の方が見かねて雪が溜まっている箇所を重機でかいて下さることもしばしばありました。周りの皆さんに助けてもらえることをありがたく思いつつも、できる限りは自分自身でなんとかしないといけないと思い、父に大まかな操作を教えてもらいました。いざ自分で除雪機を使うとなると怖いもので、なるべく除雪機を使わずに人力で雪をかいていましたが、どうにもならなくなった時には除雪機を使っていました。除雪機を扱う回数も増え、近所の方にアドバイスをいただきながら、徐々に除雪機の扱いにも慣れ始めてきました。家の裏側を除雪した時、除雪機を家側に寄せすぎてハマりそうになった時はヒヤッとしましたが、何とか前後に動かして抜け出せました。失敗を経験し、扱う回数が増えればもう少し上手く除雪機を扱えるようになるかと思う今日この頃です。　（水内編集委員　島田 遥）

心ほっこり

# スキー場でとても うれしい体験をしました！

大雪の予報が出ていたのですが、３人の子どもと早めに切り上げるつもりでスキー場へ。何回か滑った後、迂回コースを目指してリフトに乗りました。すると、その日は雪崩の危険があることから迂回コースは閉鎖されており、急斜面を滑らなければならない状況に…。上２人の息子は自力で滑り降りることが出来ましたが、娘（小１）と私は、深い新雪と急な斜面に心が折れてしまいました。そんな中、一人の青年が現れ、助けを求めると、快く引き受けてくれて、一緒に来ていた友達と２人で、娘をおんぶしたり、板を持ってくれたりしながら、「大丈夫だよ」と声をかけて下まで降ろしてくれました。お礼を伝えると「愛先生ですよね」と言われ、ゴーグルを外した青年をよく見ると、保育園で働き始めたばかりの頃に受け持った山岸拓馬君だったのです。もう一人は斎藤大地君でした。その後二人は「まだ上に降りられない人いるから、助けに行ってきます！」とリフト乗り場に向かって滑っていきました。２人の優しく頼もしく成長した姿に、ただただうれしく思い、感動しました。

寄稿者：大庭 愛（森）

# 今月の一句 ～栄村俳句会～

煙立つ窓より眺む道祖神　山田せき

じんとくる朝の味噌汁春の味　福原勇一

苗場山名の由来聴く春隣　斉藤はる子

横たわる蜂をつかみて痛たたた　関谷貞子

雪の花天から降りて地に降り立つ　馬場澤子

冬鳥のつがいまあるくふくれおり　柳　静江

雪晴れ間この絶景が村自慢　杉浦恵子

# 編集後記

弥生、３月。おひな祭り、卒業式、春分、雪解け、旅立ち、そして出会いがやってくる。

待ちわびた春。新１年生、新しい先生。みんな希望です。

あの震災から10年。あっという間でした。これから先、自分はどうしたいのか、どう生きていきたいのか、どんな村に暮らしたいのか、今一度考えなおすきっかけとして、希望を持ち、私たち皆で準備し、皆で楽しみ、皆で喜びあいたいですね。　㋮